

学校名		長崎県立長崎東中学校
生徒数		118名
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	平均正答率は92%であった。概ね基礎的な事項は身につけているが、漢字の書き取りや熟語における漢字の意味を考える問題、また慣用句の問題に課題が残った。今後は、授業の中で熟語の中の漢字の意味を考えさせたり、文脈の中で言葉の意味や用法を意識させたりする場面を増やしていく。
国語 B	概況 改善策	平均正答率は94%であった。「書くこと」の分野の正答率は90%と高いが、課題にしたがって整理しながら、情報量の多い文章を読む力が十分ではなかった。今後は、授業の中で、事実と意見を整理しながら読み、要旨を的確に捉えてまとめる場面を多く設定していく。
数学 A	概況 改善策	平均正答率は91%であった。関数の領域の正答率は94%と高いが、作図の問題を苦手とする生徒が多かった。問題を多角的に捉えることができていることが原因であると考えられるので、今後は、授業の中で数値を変えて考えたり、生徒自身が問題を作ったりする活動に取り組みせていく。
数学 B	概況 改善策	平均正答率は79%であった。数学的な技能に関する問題は正答率が高いが、事象に即して解釈する問題、数学的に説明したりする問題で半数近くの生徒が正答できなかった。今後は、授業の中で数学と日常生活の関わりを考える場面や生徒同士で説明し合う場面を意図的に設定していく。
質問紙調査の状況		概ね基本的な生活習慣が確立しており、家庭における学習や読書の時間も多い傾向にある。自分の考えを述べることや、長い文章で書くことへの抵抗が低く、そのことが国語 B の正答率の高さに反映されたと考えられる。一方で数学に対する興味・関心は高いが、日常生活での数学の活用に対する意識は低い傾向にあり、今後の課題の一つであると考えられる。

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立佐世保北中学校
生徒数		119名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は92%であった。基礎的な知識は身につけている一方で、文法に関する知識の定着が十分でない生徒がいる。今後は、授業の中で書いた文章の推敲をしたり、より相手に伝わりやすい文の構成などを考えさせたりする機会を多く設定する。また、書写の授業で学んだ、字形や文字の大きさ、配列を考えて書くことを活用するよう指導していく。
国語B	概況 改善策	平均正答率は89%であった。活用能力の基礎は身につけている一方で、条件に従って文章を書くことや情報を収集する力が十分でない生徒がいる。今後は、文章を読んでものの見方や考え方を広げるために、授業において文章の内容を正しく理解する力を育てるとともに、自ら新たな課題を発見し、課題解決のために情報を収集する能力の育成を図っていく。
数学A	概況 改善策	平均正答率は92%であった。基本的な知識はある程度身につけている一方で、証明の必要性やその意味が把握できていない生徒や具体的な事象や資料からの情報を正確に掴めていない生徒が多い。今後は、授業において問題や資料を注意深く読み取り、必要な情報を整理する演習に取り組ませる。
数学B	概況 改善策	平均正答率は81%であった。図形の分野では一定レベルの応用力が身につけている一方で、与えられた事象とグラフや式のつながりを正確に把握する力や、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力が十分でない生徒が多い。今後は、授業を通して式の意味を丁寧に指導し、言語活動を充実させることで、表現力、思考力の育成を図っていく。
質問紙調査の状況		多くの生徒が家庭学習のほとんどを宿題や復習にあてており、予習をしている生徒が10%と全国平均を下回っていた。また、「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていた」という項目の評価も低く、今後は、授業の目標をはっきりさせ、生徒が主体的に学習する習慣を身につけられるよう指導を充実させていく。

平成 28 年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生徒数		116名
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	平均正答率は 92%であった。登場人物の言動から内容を理解することや、相手や場に応じた言葉遣いに気をつけて話すことなどがよくできていた。一方で、書き直しの意図を説明した文章を正しく読み取ることが十分ではない生徒がいるので、ペアやグループによる言語活動を適切に取り入れ、意図の伝え方・理解についての改善に取り組む。
国語 B	概況 改善策	平均正答率は 91%であった。目的に応じて必要な情報や要旨を読み取ることがよくできていた。一方で、課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えることなどについては改善の余地がある。今後は、課題解決の力を一層のばすために、授業の中で条件作文を書かせる際の課題を工夫するなど指導の改善に取り組む。
数学 A	概況 改善策	平均正答率は 91%であった。全ての領域において、計算や図形の性質、グラフや資料の読み取りなど、基礎的・基本的な事項が身につけている。一方で、特に垂線の作図方法や命題の逆などの理解について課題があるので、今後は、授業の中で実感や意味を伴った理解ができるよう指導の改善に取り組む。
数学 B	概況 改善策	平均正答率は 79%であった。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する力は十分に身につけている。一方で、表から数量の変化を捉えることや、与えられた式を用いて解決の方法を数学的に説明することについては課題があるので、授業の中で一層良質な言語活動を仕組むなど指導の改善に取り組む。
質問紙調査の状況		授業や質問への対応など教員への満足度は高く、宿題・予習に取り組む家庭学習の習慣は定着している。しかし、授業の復習に取り組むことについては課題があり、今後は授業の最後に学習内容を振り返る活動を確実に位置づけるなど、復習の意義や効果を更に指導する。また、メディアへの接触時間は全体的に短く、2時間以上、ゲーム等をする生徒は1割未満、通話・メール等をする生徒は2割未満と良好である。